

授業作り	重 点	学習規律を校内で統一し、タブレット端末を効果的に活用した授業を展開する。
環境作り		学習に向かいやすい教室環境を整え、個に応じた学習指導をする。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・ひらがな・カタカナ・漢字を確実に身に付け、正しく丁寧に書けるようにする。 ・話すこと・聞くことの力を付け、自分の知らせたいことをすすんで話したり、相手の話を最後まで聞いたりすることができるようにする。 ・10までの加減及び繰り上がり・繰り下がりのある加減の計算方法を確実に身に付け、正確に計算する。計算の仕方を図やブロックを使って表せるようにする。	・文字の学習はデジタルドリルやプリントを活用して反復練習をし、定着を図る。 ・漢字の小テストを実施し、定着を図る。 ・授業内でペアで話をする時間を積極的に取り入れる。話を聞く姿勢など、基本的な話の聞き方の指導を重視する。 ・デジタルドリルやプリントや計算カードを活用し、計算練習を学校や家庭で繰り返し行い、定着を図る。 ・ブロックや図、言葉を用いて自分の考えを表す場面を設定し、それを使って発表するようにしていく。
2 学 年		・平仮名（拗音などを含む）・カタカナ・漢字を正しく書けるようにする。 ・加法・減法の計算の習熟を図り、確実に計算できるようにする。また、かけ算九九は、暗唱できるようにする。 ・自分の考えを話したり、書いたりして人に分かりやすく伝えられるようにする。	・漢字の小テストを実施し、定着を図る。 ・文章を書いた際に、必ず見直しをさせ、拗音などの確認をさせる。間違いをすぐに直させて、定着を図る。 ・デジタルドリル等を活用し、反復練習させる。 ・暗唱テストを行い、確実にかけ算九九を唱えられるようにする。 ・自分の考えを書き表す時間をきちんと設け、文例を示したり、図での表現方法を工夫したりするなどの指導をし、身に付けさせていく。
3 学 年	・新宿区学力定着度調査は、国語・算数ともに、全国平均を上回っている。 ・国語は、「書くこと」の領域に課題が見られる。 ・国語、算数ともに学習理解における個人差が大きい。	・漢字を正しい筆順で丁寧に書くことができるようにする。 ・話のまとまりを意識して、文を書くことができるようにする。 ・文章の内容を正しく読み取り理解することができるようにする。 ・計算などの基礎学力の定着を図る。	・デジタルドリルを活用して漢字の練習を行い、小テストなどの反復学習を行う。 ・書く目的や相手を明確にして文章を書き、書いた後は互いに読み合う時間を確保する。 ・文章の要点を確認し、内容を理解してから課題に取り組む。 ・デジタルドリルを活用して、計算などの基礎学力の定着を図る。

		・自ら進んで学習に取り組めるようにする。 ・図などを使って、自分の考えを説明する。 ・自分の考えを根拠を基に話す。	・自主学習に取り組み、互いの学習内容を共有し合う時間を設ける。 ・数直線やテープ図などを使って、自分の考えを伝え合う時間を設ける。 ・思考ツールなどを活用し、自分の考えを整理する。
4 学 年	・新宿区学力定着度調査ではどの領域も平均点より高く、良くできている。 ・漢字や句読点など、言語領域に課題がある。 ・文章の読解力は個人差が大きい。 ・数や計算などの基礎的な知識、技能に課題が見られる。	・漢字を正しい筆順で丁寧に書くことができるようにする。 ・既習漢字や句読点を正しく活用することができるようにする。 ・文章の内容を正しく読み取り理解することができるようにする。 ・計算などの基礎学力の定着を図る。 ・書いた文章を自分で読み返し、推敲することができるようにする。 ・自分の考えを書き表したり伝えたりすることができるようにする。	・デジタルドリルを活用して漢字の練習を行い、小テストなどの反復学習を行う。 ・課題プリントなど書く活動で、既習漢字や句読点の指導を継続して行う。 ・文章の要点を確認し、内容を整理してから課題に取り組む。 ・デジタルドリルを活用した反復学習を行い、計算などの基礎学力の定着を図る。 ・文章を見直す視点を示し、自分で振り返りができるようにする。 ・考えを書く時間、交流する時間の意図を明確にする。
5 学 年	・新宿区学力定着度調査は、国語・算数ともに、全国の平均を上回っている。 ・既習漢字の定着に課題がある。 ・文章を書くことに課題がある。 ・式の意味を自分の言葉で説明することが課題である ・作図を正確に行う力を付けることが必要である。	・既習漢字を使って文章を書けるようになる。 ・図や式、数直線などを用いて発表できるようにする。 ・図形の特徴を整理し、正確に作図することのできる力を身に付ける。 ・接続語や段落分け、句読点の打ち方を意識しながら文章が書けるようにする。 ・算数用語(積、商、割る数、割られる数など)を使い、説明できるようにする。	・漢字の定着を確認するために、週に1回小テストを実施する。50問テスト前には、練習を促し定着を図る。また、作文などで日常的に既習漢字を使うようにする。 ・週に1回の自主学習で、調べたことを自分の言葉で文にまとめる機会を増やす。 ・デジタルドリルを活用する。 ・自分の考えを文章化して、発表する機会を増やす。 ・プリントやノートを活用し、作図する機会を確保する。 ・文章を書く機会を定期的に設ける。 ・授業内で教員が意識的に使い、算数用語を使用している場面が見られた場合には褒めて伸ばす。
6 学 年	・新宿区学力定着度調査は、国語・算数ともに、全国の平均を上回っている。 ・国語では「書くこと」、算数では「計算」の領域が他の領域に比べて正答率が低い。 ・自分の思いや考えを表現することに課題がある。 ・算数の学力定着度は個人差が大きい。	・自ら課題を設定し、その課題の解決のために探究的・協働的に学習する力を身に付ける。 ・自らの考えを伝え、表現できるようにする。 ・漢字や四則計算など、基礎、基本的な学力を全員に身に付ける。	・ペア・グループ学習を意図的に設定し、他者と関わることを通して、自らの考えを伝えたり、広げたりする機会を確保する。 ・プリント学習やデジタルドリルを活用し、これまでに既習した内容も復習するなど、個に応じた学習を進める。また、必要に応じて放課後補習なども実施す

			る。 ・国語の授業の始めに作文の時間を設定し、自らの考えを表現する活動を継続して行う。 ・算数の学習では、図や数直線などを使って立式する練習を積み重ねていく。また、自分なりの言葉で考えを説明できるように伝え合う場や時間を確保する。
特別支援		・まなびの教室利用児童の実態を的確に把握し、タブレット端末などを効果的に活用しながら特性に応じた指導を行う。 ・在籍学級の学級担任と情報交換し、指導方針を設定する。	・読み書きの流暢性や速さを把握するアセスメントツールなどを活用し、児童の実態に沿った指導を計画・実施する。また、タブレット端末を活用した見るトレーニングなども計画・提案していく。 ・在籍担任と常に情報交換を行い、指導の方針を見直していく。